

令和元年度 大船渡市総合戦略市民会議での意見等

企画政策部企画調整課

基本目標 1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする

項 目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
基本目標 1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする	・水産業の分野で、注目を集める若手が出てきている。 ・市内に就業場所が不足しているため、高校等卒業生等の人材が市外に流出している。 ・1次産業への就業意欲を持たない子どもが多い。 ・4年前に市外から移住したが、仕事の選択肢が限られていた。自分で営業し希望する仕事に就くことができた。 ・知識やスキルを活かせる職業が市内にないので、大学等に進学しても市には戻ってこない。	
施策 1 産業競争力の強化	・買受ける力が港の生命線である。生産者と買受人の共生が必要である。 ・高付加価値商品の開発は相当の資金が必要である。資金力に乏しい中で新たな事業への投資は現実として難しい。	
111 水産業連携強化促進プロジェクト	・大船渡市は、本州一のサンマの産地である。引き続き PR にもっと力を入れるべきである。 ・近年はサンマをはじめとした水産資源の不漁が続いている。氷などの関連産業にも影響が出ており、「負のスパイラル」に陥っている。	・イワシなどの他の魚種で不漁をカバーしていることもあり、今後はサンマやサケといった従来の魚種以外の水産資源を確保するための研究を進めていくことも必要である。
112 おいしい「食」づくり 力向上プロジェクト	・飲食店マップは既にある。見せ方が弱いと思う。 ・さんまグルメフェアに参加したが、同じようなメニューが多いと感じた。	・飲食店マップの作成、共同メニューの開発等に取り組んでほしい。 ・情報発信にネットを活用してほしい。 ・民間企業が情報発信に取り組めるよう IT の専門家に関わってもらい仕組みがあれば良い。 ・さんまグルメフェアはとても良い企画だと思うので、メニューの数をもっと増やすべきである。また、様々なイベントを実施し、大船渡の食をさらに PR するべきである。 ・加工食品として市でブランド化し起業を促しても良い。 ・大船渡では外国人が多く働いているため、その方達をターゲットとしたイベントを行い、SNS 等で発信してもらい、世界に PR できるような取組をしても面白いと思う。
113 持続可能な漁業推進プロジェクト		
114 港湾物流機能強化プロジェクト	・昔は大船渡の方が釜石市よりも取扱量が多かったが、近年では負けているので、港湾機能の強化を図ることが重要である。	

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
施策 2 新産業の創出と起業・ 第二創業支援		
121 テレワーク導入促進プロジェクト	・テレワーク導入に向けた取組を聞いたことがない。情報が民間企業に届いていないと感じる。 ・大船渡市内で働ける場所が沢山あると良い。特にテレワークなどの仕組みを活用し、ちょっとした空いた時間を使って働ける環境が望ましいのではないかと。一方で、雇用する側（仕事を提供する側）としては、管理が難しい面もあるだろう。 ・テレワークは大船渡に住みながら仕事ができ、人口流出を防げるので良い。	・今は二地域居住の考え方もある。関東などの別の地域に住んでいても、大船渡の仕事をしたり、短期的に居住するなど、市と関係性を持つ人を増やせると思う。距離を克服するような補助が必要である。 ・高齢者や主婦などが働きやすい仕事づくりが求められる。仕事の分業化、柔軟な働き方の導入等の工夫が必要である。
122 新分野進出促進プロジェクト	・大船渡には世界的にも珍しいとされる「椿」がある。オイルやコマなどの製品を作っており、令和3年に開催される予定の全国椿サミットに向けて盛り上げることが重要である。 ・末崎町にある熊野神社には椿の古木があり、非常に貴重なものであり、大切にしていきたい。 ・以前市内のイベントで、タピオカミルクティーを提供していたが、その時椿茶で作られたミルクティーがとてもおいしかった。お茶にするには椿の葉の安定生産が必要だと思う。大変ではあるが、将来的には椿茶が大船渡の名物になれば良いと思う。	・末崎町には、椿の皮むきなどの加工をしている地元の人もいる。椿の利用が拡大していけば、雇用も増えるだろう。
123 出る杭育てるプロジェクト（起業家輩出プロジェクト）	・大船渡ビジネスアカデミーの受講をきっかけに活躍した人がいる。今は海外相手にビジネスを展開している。 ・アカデミーに参加したが、大変厳しかった。目標等を数値で管理するよう徹底される。 ・起業はどんどん進めていくべきである。しかし、大船渡では起業はそれほど多くない。 ・介護分野での起業は増えていく可能性はあると思うが、一方で人手不足の問題もある。	・アカデミーはもっと多くの方に受講をしてほしい ・アカデミーを希望する高校生にも受けさせたい。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
施策 3 地域産業人材の育成と キャリア教育の推進		
131 地域産業人材育成強化 プロジェクト		
132 スマートキャリア構築 プロジェクト		・学校でプログラミング教室が始まっている。市の取組として、学校に出張してプログラミング教室を開催しても良いと思う。

基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる		
施策 1 観光誘客による交流人口の拡大		
211 スローシティ大船渡プロモーションプロジェクト	・東京タワーでのイベントなど、大船渡の「食」を使ったシティプロモーションは人気も高く、成功しているように思えるので、今後も続けるべきである。 ・特にサンマと言えば大船渡と言われるようにサンマブランドを確立してほしい。 ・一方で、サンマの漁獲量が減っているのが懸念される。 ・サンマラーメンのレシピが多様化し過ぎて統一感が失われている懸念がある。【重複：112】	・温暖化による漁獲種の変化に対応した商品の多様化や新たな魚種の商品ブランド開発が必要ではないか。【重複：112】 ・サンマラーメン・コンテストなどを開催し、優秀なレシピを市内の店舗で共有できるようにしてはどうか。【重複：112】
	・ジオパークは知名度が低く、たまに客が来てもガイド不足から日程が合わずに案内できないこともある。	・ジオパークは学術的でやや硬いイメージがあるので「食」から入ったほうが入りやすいと思う。 ・基石海岸の基石黒飴などジオ関連商品を開発してはどうか。
	・平泉町と陸前高田市と気仙沼市と南三陸町と涌谷町で産金に関わる日本遺産に登録された。	・大船渡も産金地帯の一角を担ってきたので、これらの活動と連携した広域観光を進める必要がある。
	・椿まつりの内容がいつも同じとを感じるが、今年はガンライザーのイベントがあり親子で楽しむことができた。 ・キャッセンで開催されるイベントは親子で参加しやすい。 ・大船渡の資源として、椿館や椿をもっと前面に出すべきである。例えば、椿祭りのリニューアル、椿をモチーフとしたグッズの開発等が考えられる。	
	・基石海岸を除けば大船渡は観光地らしい面がない。土産売り場も市内ではさいとう製菓以外に思い浮かばない状況にある。	・大船渡の知名度を底上げする必要があるので、ロッテに入団した佐々木投手を活かしたプロモーションを検討してはどうか。 ・ロッテとの縁を活かして、大船渡とのコラボ商品を開発してはどうか。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
212 大船渡ファン獲得プロジェクト	・加茂神社、今出山、夏虫山とか見晴らしがいい。この山は子ども達が登山をしている。 ・海と山と温泉が揃っているのが大船渡市の魅力である。 ・三陸沿岸道路が開通すると大船渡市は通過されると言われがち。 ・大船渡市内のホテル宿泊者は、個人客がメインとなっている。運転免許を取得するために関東から合宿で来た方々がリピートで訪れたり、冠婚葬祭のために市外・県外へ出た方々が大船渡を訪れることが多い。 ・大型客船が大船渡に寄港してもらうのはいいが、乗客の多くは大船渡市内にとどまらず、すぐに内陸などへ移動してしまう。 ・寄港の時期と椿まつりの時期も合っていない。 ・情報発信が若者向けでない。 ・外から来る人は、岩手県の地理的な距離感が分からないため、ラグビーワールドカップの時もわざわざ内陸に宿泊して釜石市を訪れたという話を聞く。大船渡市内に宿泊した人数はそれほど多くなかった。釜石市に近いというアピールが足りないのではないか。 ・大船渡ではグリーンツーリズム、ブルーツーリズムについて聞かないが、取り組まれているのか。陸前高田市では取り組んでいると聞くが、市内で取組状況は分からないのが現状である。 ・魚市場は、現在全国からの視察が多く対応が大変である。この時期を逃す手はない。	・見晴らしが良いところは、草刈り等の環境整備が必要である。 ・アウトドアが好きな方に PR した方が良い。 ・どうにかして滞在時間を延ばし、下りやすい PA にする（登米市の三滝堂 IC 併設の道の駅三滝堂は混んでいる）。三陸沿岸道路はトイレが無いので、まずトイレは必要ではないか。 ・ホテルに宿泊するお客さんによく聞かれるので、「今の船渡」のオススメを教えてください。個人客が多いので、こじんまりとしたものが良いのではないかと。例えば、若い人向け、年輩向け、個人旅行者向けなどが挙げられる。例えば、魚市場とか地元のプロがオススメする情報がほしい。 ・大型客船の乗客たちが市内観光できるまちあるきツアーを実施してはどうか。 ・大型客船の乗客（富裕層）向けに、吉浜アワビのスープやジビエ料理の開発などがあると良い。 ・大船渡の何気ない風景にも目を向けたインスタ・スポットなどのやわらかい情報発信を積極的に実施していくべきである。 ・YouTube などの動画サイトも積極的に活用した大船渡の面白情報を発信していくべきである。 ・観光や定住でも釜石市内から 30 分ということを強みにしても良いのではないかと。
213 復興交流ネットワークシンカプロジェクト	・銀河連邦で行っている交流イベントではホタテが大変人気だった。	・大船渡ファン獲得には大船渡の資源で胃袋をつかむことが重要だと思う。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
施策 2 移住・定住の促進	・そもそも家賃が高いので、移住者に限らず家賃を下げるのが先決ではないか。	
221 大船渡スローライフ・スローフードプロジェクト	・陸の資源としては干柿があると思う。昔は軒先に多くの干柿が各家に吊るされていた。	・干柿などの食文化・風景も活用してはどうか。
222 移住総合支援体制構築プロジェクト	・良い意味で、キャッセンだけは船渡ではない印象である。親子イベントが開催されているので良い（親子連れは休日に船渡市内ではなく、内陸や釜石市のイオンへ行ってしまふ）。子育て家庭にとって船渡市の魅力は何か疑問である。 ・空き家バンクはあるけれど、そもそも船渡は家賃が高い。若い夫婦がアパートを借りたいと思っても借りることができないほど家賃が高いので、移住できない現状がある。 ・家賃が高いのは不動産屋の問題ではないか。ワンルームアパートの家賃は盛岡市内より高い。 ・船渡市の親は、子どもが市内に就職する場合、一人暮らしをしてほしいと希望される方がよくいるため、市内に就職する高校生（東高校は市内就職が半分以上）のためにアパート情報を高校にも提供してほしい。 ・市内の保育園は全て日曜・祝日休みだが、船渡市内に就職するとなると、サービス業等に就職する場合、休みの保育が必要となる。また、就職活動中で子どもを保育園に預けている家庭では、子どもが小さいと就職を断られることがあると聞いている。【重複:基本目標3】 ・移住となると就職できないといけな。例えば農業への就業は、所得が低く希望がない状況である。 ・空き家を活用した移住促進は歓迎だが、そもそも船渡は全体的に家賃が高いので、移住者が家賃面で優遇されるのは問題になりかねない。	・空き家だけではなく、例えば東北電力の社宅などの一般利用を検討してはどうか。 ・空き家の紹介だけではなく、家賃補助があれば良いと思う。 ・空き家情報の発信が必要だが、そもそも賃貸情報が市内に足りていない。空き家バンクに登録していない物件の情報発信が必要ではないか。 ・ただ「空き家」だけではなく、きれいにするなど住みやすくリフォームをしないと住みたいと思わないだろう。 ・移住してもらうには母親の就労を確保する必要がある。例えば、このような職業でも母親が活躍しています、というような就労できる職業を紹介する。子どもが小さいなら雇用できないというような企業の考え方を改めてもらうようなアクション、また女性のキャリアを断絶させない、またキャリアアップできるような事業などが必要である。 ・オオフナコでは、子育てに優しい勤務や、テレワークを実施している。子育てに優しい勤務形態が広がれば良い。 ・家庭所得がある程度あっても公営住宅に住めるような施策も必要と思う。

基本目標 3 大船渡で安心して家庭を築き、子どもを産み育てられるようにする

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
基本目標 3 大船渡で安心して家庭を築き、子どもを産み育てられるようにする	具体的な施策については、市民はよくわかっていない。	
施策 1 出会いと結婚の促進	- 昔は職場や地域の先輩などが仲人となり、情報交換することで出会いの機会が生まれていた。 - 結婚を前面に出す婚活イベントではなく、若者が自然な形で出会えるサークル活動は良い。	若者から見た結婚や結婚式のイメージを変えていく必要がある。
311 結婚意識改革プロジェクト	- 学校での結婚・子育てを意識させる教育プログラムは続けるべきで、老後の不安も視野に入れたライフプランで考えてもらいたい。 - 今の若者にとって現状の結婚式のイメージがやや重いのかも知れない。	- 産み増やすだけではなく、幸せな家庭生活を目標とし、LGBT にも配慮した結婚観の醸成も必要な時代にある。 - 伝統的な大船渡の結婚式がどのようなものであったのかを再現するセミナーを開催し、各年代が『結婚』への関わり方について学ぶ機会があると良い。 - 大船渡市内では結婚式場が限られているので、キャッセンや眺望の良い公園、レストラン、神社、船上などユニークな場所で結婚式が挙げられるようにすれば、結婚式の多様化が図られ、結婚へのイメージも変わるのではないか。 - 市内でのユニーク結婚式は街をあげて祝福するイベントとして、高校生などにも挙式を手伝ってもらい、新しい結婚のイメージを培ってもらうと良いかもしれない。
	- 家族を作ることや結婚が良いという情報が少ないように思う。 - 友だちの話を聞く限り、結婚は大変だというイメージである。	- 家族を作ること、結婚をすることが良いと思ってもらえるようなイメージ戦略が必要ではないか。 - 身近な人、子どもが尊敬している人から、家族や結婚に関する良い話を聞くと、イメージが良くなるのではないか。
		【意見書】 小中学生対象の赤ちゃんふれあい体験は終了とのことだが、今後はY・Sセンターや各種講演会等の赤ちゃんが集まる場所を活用できないか。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
312 出会いと結婚まるごと 応援プロジェクト	・アーバインという若い男女の出会いを目的としたサークルは良いと聞く。独身者だけではなく既婚者も参加可能だが必ず独身者も連れていくルールになっているようだ。「結婚」を前面に出すイベントではなく、スポーツや料理などの共同作業から自然な出会いの場を演出しているようだ。 ・婚活イベントは小さな街では申し込むのも恥ずかしいという雰囲気がある。 ・縁結会という仲人さんの会があり、結婚適齢期の男女の情報交換をしているようで、ぜひ続けるべきだと思う。	・婚活イベントではなく、アウトドアやパークゴルフなどの自然にチーム活動できるイベントの方が良い。 ・「草食系」が増える現状では「仲人の復権」により出会いのきっかけづくりを積極的に演出していくのが良い。 【意見書】 ・「結婚相談支援センター」という名称がかたすぎる。もっと入りやすく、気軽に立ち寄れるような名前が良い。 ・「出会いの場」というといかにも「真剣な結婚」をイメージしてしまうため、若者が集まりやすいイベントを企画し、楽しい時間を共有することを目的に多様なイベントを開催する必要があるのではないかな。BBQ やシュノーケル等のアウトドアな企画はなかなかハードルが高いと感じる。 ・飲み会やイベントにお金を使うという感覚があまりなく、自分の世界に閉じこもりがちな若者が町に出たくなるような工夫が必要である。 ・入籍（結婚）特典として、市内の飲食店で使える特別ランチ or ディナー（ケーキ付）チケットがあると良いのではないかな。 ・カップルがオススメする「ここが好き、大船渡」の記念写真（顔が入らなくても良い）を撮影してもらい、市役所内に大きなボードを作り、その写真を貼り、フォトジェニックなスポットを作る。どの年代の方もそのボードを見て幸せを分けてもらい、市役所の雰囲気も明るくなる。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
施策2 安心して妊娠・出産で できる環境の整備		【意見書】 ・妊娠してから子育てまで、福祉の里センターやおおふなぼーを中心にたくさんのセミナーや講習会は開かれているように思う。今後も引き続き、ママたちの情報共有の場を作っていってほしい。 ・公園やおおふなぼーなど、子どもを遊ばせられる場所は少しずつ整備され増えてきているように思うが、そのような場所を使って子ども達と遊びながら（座学ではなく）学べる講習会のようなものが開かれるといいと思う。 ・病院にいくまでもないが、不安や悩みがあるときに気軽に相談できる機関があれば良いと思う。現時点でもあると思うが、あまり知らない。 ・母だけでなく、地域の人もそのような機関の情報を知っているとサポートがしやすい。市内の各種イベント時に子育て支援団体等を紹介するようなブースを作ってはどうか。 ・赤ちゃん出産プレゼントを思い出に残るものにしてはどうか。タイムカプセルのようなものや非売品の大船渡の特別グッズなど。 ・市内のイベントで「子ども（赤ちゃん）と一緒に参加すると特別グッズプレゼント」のような特典をつけるともっとイベントが賑わい、家族で出かけられる時間が作られるのではないかな。 ・イベントでポケモンコーナーがあるが、おおふなとんと子どもたちのイベント（踊るだけではなく）も作ってみてはどうか。 ・公園や各種施設、町の中で子どもを遊ばせるには、飲食店等の柔軟な受け入れ態勢が必要である。対策として、離乳食持ち込み可能、ベビーカーのまま入ることができる、子どもイス・おむつ交換台等の設置等が考えられる。 ※上記が整っているのは大手（イオン等の大型施設）のため、市内ではなく外にお金落ちてしまっている。
321 妊娠・出産プロジェクト	・県立大船渡病院へは行かず、気仙沼市内の個人病院で妊娠中の定期健診を受診したり、出産をしたりする方が多いようだ。気仙沼市内にある森産婦人科医院の評判が良いらしい。気仙沼市立病院は移転して新しかった。	

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
322 乳幼児の健やかな成長 支援プロジェクト		
施策 3 子ども・子育て支援の 充実	・若い世代は親との同居を好まないで、地域コミュニティの視点から子育て支援を考える必要があるのではないか。	・空き家を活用した若者世帯の家賃負担の低減化は、空き家が増えている地域コミュニティにとっても若者が増えるチャンスであり、地域コミュニティでの子育て支援が可能になるのではないかな。
331 地域で支える子育て環 境創出プロジェクト	・若い夫婦は親との同居を望まないが、大船渡市は家賃が高く、別居を難しくしている。 ・空き家が増えている地域コミュニティにこそ若い世帯が必要と思う。	・仲人などコミュニティ内のお節介人材はDVや虐待防止にも効果が発揮されると思う。 ・家賃が高い大船渡市にあつては子育て世帯に家賃補助があると良い。 ・子育て世帯が地域の自治会や消防団などに入ることを条件に、公営住宅などに安く入れるよう家賃補助や所得控除があると良い。 ・若い世帯に空き家を斡旋し、地域コミュニティ内で高齢者の見守りなどをする代わりに子どもの一時預かりなどをしてもらうなど互恵関係が醸成されるよう促すのが良い。
	・子育て中の方対象の講習会等があり、育児休業を取得することができ人には支援は行き届いていると思う。一方、育児休業が取れない人、例えば自営業の方には講習会のような支援を受けることが出来ないで、偏りがあると感じる。	
	・大船渡市の図書館は子どもにも対応しているし、キャッセン、かもめテラス、おおふなぼーとなどへ子どもを連れて行くことができる。おおふなぼーとにはボーネルンドという外国の知育遊具もある。 ・子育て支援センターが複数箇所あり、また遊べるところもあるため、状況や子どもの気分によって遊ぶ場所を替えているようだ。 ・県と社協で開催したキャッセンでの子育てイベントは客船飛鳥が入港していたこともあり、大盛況だった。こんなに子育て中の家族がいるのかと思った。	・おおふなぼーとは、まだ子どもの遊べる場所として知らない人もいるため、常に情報発信が必要である。 ・地域にある公園は狭いので、外でボール遊びができるような大きな広い芝生だけの公園がほしい。被災して現在工事中となっているサン・アンドレス公園は良かった。 ・公園には子どもが使えるトイレが必要である。 ・市内でベビーカーを押して歩けるような道路環境が必要ではないかな。 ・遊び場や子育てイベントはあるが、実は子育て環境のネックは駐車場が少ないことではないかな。 ・サン・アンドレス公園のような広い芝生の公園がほしい。 ・復興のために区画が細かく区切られているが、広い区画で公園が出来ないだろうか。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
332 ワーク・ライフ・バランス実現促進プロジェクト	・働き方改革を率先すべき役所や銀行、学校は相変わらずオーバーワークのように見える。 ・男性の育休は取りづらい環境にある。 ・零細な企業では育休の長期化は厳しい状況にある。 ・教員の育児休業は最大3年間取得できる。急な休みでもフォローしあう体制が出来ているので、産休育休があっても大丈夫である。	
	・仕事を辞める人は、給料だけで辞めるのではない。人間関係、コミュニケーションの問題といった環境の問題のために仕事を辞めていく。 ・働き方改革というが、取り組める企業とそうでない企業があるのではないか。小規模の事業所でもやれることがあるのか。 ・30代の方が仕事をためていくので、20代にしわ寄せがいたり、上の世代との間に入ってくれる世代が抜けているので大変である。 ・仕事用と私用の携帯電話は分けて、休みの日は仕事用の携帯電話を切っておきたい。 ・女性は結婚で仕事を辞めていく。最近は昔のように、結婚したら仕事を辞めてほしいという風潮も無くなってきているのだが、なぜか辞めてしまう。 ・育児休業等を与えたら補助金を出すのが良いと思うが、補助金の申請には条件や手続きが大変である。	・人材難でもあるので、仕事を一旦辞めた方の再雇用をしたい。職種ごとに再雇用のための相談会を開催したい。保育士の再雇用を促進する施策に取り組む市町村もあるので、保育士以外でもそのような事業があっても良いのではないかな。 ・今は有休を5日取得させなければならない。まずは有休を必ず取得するように、経営者側からアクションを起こすことが必要である。男性職員にも育児休暇や立ち会い出産のための休暇、高齢者であれば祖父母参観日など、休む機会があれば休むように声をかける。若い世代が休むようになったら、子育て世代以上の世代も休みを取りやすくなったという実感がある。 ・まずは1日ぐらい休んでも大丈夫だと思ってもらえるように、休暇をとることになれてもらうことが大事ではないか。
		【意見書】 ・パパ、ママの柔軟な働き方を企業が理解していく必要がある。中小企業ではなかなか難しいが、一人一人への仕事の負担をかけすぎない工夫が必要ではないか。

基本目標 4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
基本目標 4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる		
施策 1 誰もが住みよいまちづくりの推進	【意見書】 ・新しいまちづくりは進み、ハード面はほぼ整ったように思うが、心のケアはまだ十分といえないのではないかな。	
411 地域包括ケアシステムを核としたまちづくりの推進体制構築プロジェクト	・「地区版地域助け合い協議会」は全地域で立ち上げられたが、きっかけが自主的ではないこともあり、実際に機能しているかどうかは地域差がある。 ・立根町に住んでいるが、地域の行事にはしっかり取り組んでいる。 ・大船渡市は、地域とのつながりは強い方だと感じる。 ・地域の担い手に 50 代以下の中間層が抜けている。今後の担い手の問題がある。 ・市内でも特に盛町は地域活動が盛んでつながりが強い。しかし、盛町においても地域活動の担い手が不足しており、イベントの実施にはボランティア等の協力が不可欠となっている。	・移住者が気軽に参加できるコミュニティがあると良い。 ・地域の活動に参加してこなかった人は、地域との距離感を詰められずにいる。そのような方のために、一度参加する機会をつくってあげると良いと思う。 ・子どもと地域のつながりをつくることが、子育て世代の巻き込みにもつながる。
412 被災中心市街地再開発プロジェクト	・プロジェクトの KPI は達成しているが、まだまだ工夫の余地はある。 ・キャッセンの家賃が高く、店舗の入替が多い。また、イベントの集客力の弱さ、駐車場の少なさが問題点だと思う。 ・サンリアは年配の方の憩いの場になっている。また、震災前は高校生のたまり場でもあったが、公共交通機関の機能が弱くなってからは親による送迎が増え、高校生は集まらなくなった。 ・キャッセンでもサンリアでも、イベントが集客につながっているか疑問がある。イベントを売上に反映させる工夫が必要である。	

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
412 被災中心市街地再開発プロジェクト （つづき）	・中心市街地でおみやげを買うことができる店が少ない。また、大きなバスで行ける産直施設がないことが課題である。 ・中心部にある夢海公園は、子どもが遊ぶことができる施設が多く、よく利用する。	・中心市街地に人を呼び込む計画性がないように思う。人の流れをつくるような仕掛けをしていくべきである。 ・中心部だけではなく、山間部や海沿いの集落にも目を向けていくべきである。中心部と周辺部のネットワークづくりをもっと進めていくべきである。 ・キャッセンの周辺部には市の土地の空き地があり、公園化し花を植えることを考えても良い。また、昔の魚市場の近くにも空き地があり、そこも公園化の方が良い。 ・公園内では転んで怪我をしにくいような舗装にしてほしい。遊具ももっとほしい。バーベキューができる設備があるが、バーベキューをしている人は少ないようなので、もっと色々な人がバーベキューをするような仕掛けをしてほしい。
		【意見書】 ・おおふなぼーとやキャッセンを有効に使い、高齢者が集える教室（1回きりではなく、毎週会えるような会）を様々なジャンルで行ってはどうか（日本舞踊、囲碁・将棋、絵画スケッチ、俳句等）。復興住宅の方々にも積極的に働きかけ、心を元気に、病気を予防でき、笑顔になれる企画を考える必要がある。
	【意見書】 ・大船渡駅周辺はとても整備が進んでいるように思うが、少し寂しい雰囲気がある。車移動の人がほとんどのため、歩いている人を見かけることがあまりない。	【意見書】 ・観光で来た方々にも優しい表示や誘導、観光地等を紹介するおしゃれな看板（表示板）を設置してはどうか。「大船渡駅で降りると〇〇が出迎えてくれる」のようなもの。
413 市街地再生と連動した公共交通ネットワーク再構築プロジェクト	・震災復興で道路状況は良くなった。また、新しくできた越喜来の道の駅は人が多く来ていて、賑わっているようだ。 ・公共交通は、利用者が少なくなってきたおり、崎浜では最近バスが少なくなった。高齢者は、買い物でタクシーを利用している人もいる。	・これからの人口減少社会に対応するために、小型バスによる地域内の巡回バスや、コミュニティバス、乗り合いタクシーなどの運行を行うと良い。
	・岩手県交通が運行する路線バスの利用客数が減少している。バスは便数が限られていて利便性が悪い。 ・デマンドバスを運行しているが、利用者数が減少している。利用者の中心が高齢者であり、加齢によって外出しない方が増えたこと、周知不足によって利用者が増えないことが原因と考えられる。 ・蛸ノ浦地区との関りがあるが、買い物ができる場所がなく日常生活が大変である。車を持っていない住民は、乗り合わせ、まとめ買い、生協の利用等で対応している。	・バスの利便性が向上する取組を行ってほしい。まずはバスの便数を増やしてほしい。 ・デマンドバスを利用できる地区は今のところ限定的であるが、利用者が増えれば色々な地区に導入できる。周知の工夫をする必要がある。 ・盛岡市で運行している「でんでんむし」のように、大船渡市でもキャッセンと盛町を往復する買い物バスを導入してみてもどうか。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
414 地域医療情報共有化プロジェクト	大船渡病院には沿岸の県立病院で唯一、産婦人科がある。そのメリットを生かしていくべきである。	
施策2 協働のまちづくりの推進	震災後、既存の集落に移転した人が移り住み、新しいコミュニティが出来上がっている。このコミュニティは上手くいっていない部分もあり、特に若い世代の地域活動への参加が少ないことが課題である。若い世代との交流が少ないと感じる。核家族化も進んでおり、家に籠っているお母さんも多いように思う。	新しいコミュニティづくりのために、小さいイベントを多く実施して、若い人にも参加しやすい環境を整えることが重要である。一つの地域では難しいこともあるので、他の地域と連携して進めることも重要である。
421 市民活動団体等育成支援プロジェクト	- 大船渡には、震災後市民活動を行う団体が増えてきている。それらの団体の活動を紹介する市民活動祭りが3月8日に開催されるので、興味のある方はぜひ参加してほしい。 - 大船渡には、郷土芸能が沢山あり、約30団体が活動している。スネカも世界遺産に登録されており、砂金掘りの可能性もある。大船渡にはまだまだ眠っている資源が沢山ある。隠れた資源の宝庫である。	市内の郷土芸能団体に支援の目を向けても良いのではないかな。
	【意見書】 市民活動についての周知は進んでいるように思う	【意見書】 若い（中高生）世代のボランティアや学校単位での活動もあるが、中学生から大人まで、一つのイベントに向けて意見を出し合えるような機会を作っていってはどうかな（ワークショップなど）
422 都市間交流連携推進プロジェクト	住田と大船渡でもっと連携して、地域づくりに取り組んだ方が良いのではないかな。特に住田では最近店が少なくなっており、買い物をするために大船渡まで来ていることが多い。	これから、どんどん人口が少なくなっていく中で、大船渡だけで地域づくりを行うのではなく、気仙地域全体で話し合いを進めていくべきである。このような会議も、気仙地域で行い、地域としての将来像を議論していくべきである。
		【意見書】 大学生の呼び込みはできていると思うが、地域との交流がないまま帰ってしまっていることが多いように思う。震災後多くの大学生が研修やインターンで入ってきているので、活用していく必要がある。地元の私たちが考えつかないアイデアを持っている。

項目	現状分析（良かった点、課題 等）	取組内容
施策 3 持続可能な都市環境づくりの推進		
431 再生可能エネルギー普及促進プロジェクト	【意見書】 ・使用済みてんぷら油回収や、資源ごみ分別等、自然環境に目が向けられてきている。	
432 公共施設適正配置とリノベーション推進プロジェクト	・使われなくなった公共施設の再利用を考えた場合、人が集まりにくい場所にあるために施設が利用されなくなったと言える。	・使われなくなった公共施設の再利用を考えていくためには、その立地の悪さを逆手に取った活用方法を考えていく必要がある。全国的に遊休施設のPRを行うと、面白い利用方法を考えてくる人もいるかもしれない。
		・旧甫嶺小学校の活用を、廃校利用の先進事例として発信する必要がある。 ・学校の統廃合により廃校になる日頃市中学校、越喜来中学校、吉浜中学校の利活用に向けた検討を進める必要がある。「宿泊できる場所」、「地域の雇用につながる場所」、「体験ツアーを実施できる場所」等の方針を考えたい。
		【意見書】 ・旧甫嶺小学校跡地の BMX 場等、外から人を呼び込むことができる施設へのリノベーションを今後も増やしていく必要がある。 ・盛の商店街で閉めているお店も、リノベーションでおしゃれなお店を増やし、観光客が集まるのではないかな。